



春の訪れとともに始まったサービスタ付高齢者向け住宅京都保健会咲あん上京の建設工事は、地盤改良を終え、基礎工事に入っています。九州地方では記録的な豪雨があたり、関東地方では突風が吹き荒れたりしています。幸いにも咲あん上京の建設現場では天候に悩まされることなく順調に工事が進んでいます。7月中旬からはよいよ鉄骨の組み立てがはじまり、建物の形が見えるようになってきます。完成後は、旧上京病院とほぼ同じくらい大きさになる予定です。

入居案内のリーフレット、ホームページも完成し、2015年2月の開業をめざして入居者募集を始めます。住宅の1階には当法人が受託している乾隆地域包括支援センターが移転し、咲あん上京を訪れた方々をお迎えます。2階から5階の居住階では、各階に集合リビングを設けて、家族や友人と楽しくおしゃべりしながら、お茶を飲んだり、時には一緒に調理をすることができそうです。咲あん上京で



写真は6月下旬の基礎下地工事

あんしんという花が咲く「咲あん上京」に

介護事業部長 阿部未知

一緒に暮らす人たちの井戸端会議が理想です。集まった地域の力、この力に依拠し、街づくりの拠点になれるように頑張っていきますので、大きなお力添えを、宜しくお願いします。

2014年度事業報告・決算承認 定時社員総会

6月20日に開催した京都保健会定時社員総会は、2014年度事業報告、決算、定款変更等の議案を全員一致で承認し、役員を改選しました。承認された事業報告、決算の概要は次のとおりです。

1. 事業活動の到達

中央病院は、①2025年を見据えた医療機能、②病床機能報告制度、③周辺病院の動向掌握と県連・法人内、民医連外事業所・施設との機能分担と連携、④リニューアルを見据えた病棟・病床機能がキーワードでした。活動の柱としては、リハビリ強化型の急性期・教育病院の実現に向けて、第一に、断らない救急、重症医療のレベルアップや外科の充実などの急性期機能、第二に、リハビリテーションの強化、そのための病棟機能の再編をすすめました。7月には、回復期リハ病床を拡大(42床→54床 本館から西館へ移動)、医療療養病棟を地域包括ケア病棟へ転換しました。10月から始まった病床機能報告制度対応の基本方針は、病床機能報告制度導入後に策定される京都府地域医療計画では急性期病床の増床は認められない可能性が高いこと、しかし、法人と京都市民医連唯一の急性期病床の最大限確保をめざすべきであることから、現在の253床を拡大して293床確保をめざすために、そのために障害者病棟をDPC(急)